

平成 26 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理方法，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（人数，平均点及び標準偏差，学校平均点の分布状況，設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

<検索用キーワード>

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析

研 究 会 委 員

愛知県立春日井西高等学校教諭	口ノ町由美子
愛知県立長久手高等学校教諭	杉 山 一 朗
愛知県立東郷高等学校教諭	内 山 真 一
愛知県立西春高等学校教諭	得 永 優 子
愛知県立岡崎北高等学校教諭	広瀬八重子
愛知県立岩津高等学校教諭	荻窪雄太
愛知県立幸田高等学校教諭	木 藤 邦 雄
愛知県総合教育センター教科研究室長	米 津 明 彦（主務者）
愛知県立安城南高等学校教諭 （愛知県高等学校英語教育研究会学力調査部委員）	高 野 純 子

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理方法	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	60

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和29年以来継続して実施し、平成26年度で61回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- | |
|--------------------------|
| (1) 中学校と高等学校の連携資料 |
| (2) 高等学校第1学年における指導上の参考資料 |

2 調査の実施及び処理方法

調査の実施は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題の作成及び報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施の時期

平成26年3月下旬から4月上旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	学科	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全 日 制	普通科	105	28,214	105	28,121	104	27,904	107	27,279
	総合学科	5	1,237	6	1,476	5	1,232	6	1,476
	商業科系	7	783	6	517	6	512	7	552
	家庭科系	14	745	13	688	13	712	12	699
	英語科系	4	172	3	159	3	155	3	152
	他の学科	12	825	12	798	12	790	11	756
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		147	31,976	145	31,759	143	31,305	146	30,914

(注1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校新入学生徒を対象とするものであり、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を調査し、各学校において指導計画を作成する際の参考資料を提供することを目的としている。このために、中学校での既習事項がどの程度定着しているかを、学習内容ごとに調査した。

問題作成に当たっては、次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 調査統計事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

【表1】は、調査対象 31,976 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差） [表1]

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	1,352	3,125	3,775	4,045	4,351	4,308	4,106	3,738	2,732	444	31,976	51.2
%	4.2	9.8	11.8	12.7	13.6	13.5	12.8	11.7	8.5	1.4	標準偏差	23.4
普通科	1,311	3,047	3,643	3,769	3,905	3,649	3,373	2,923	2,215	379	28,214	52.9
%	4.6	10.8	12.9	13.4	13.8	12.9	12.0	10.4	7.9	1.3	標準偏差	23.4
総合学科	2	9	47	120	175	253	251	250	118	12	1,237	40.0
%	0.2	0.7	3.8	9.7	14.1	20.5	20.3	20.2	9.5	1.0	標準偏差	16.9
商業科系	1	5	26	47	99	159	200	190	53	3	783	38.7
%	0.1	0.6	3.3	6.0	12.6	20.3	25.5	24.3	6.8	0.4	標準偏差	15.4
家庭科系	0	3	7	25	73	119	147	192	155	24	745	31.9
%	0.0	0.4	0.9	3.4	9.8	16.0	19.7	25.8	20.8	3.2	標準偏差	15.6
英語科系	35	46	25	26	23	9	6	2	0	0	172	73.5
%	20.3	26.7	14.5	15.1	13.4	5.2	3.5	1.2	0.0	0.0	標準偏差	17.5
他の学科	3	15	27	58	76	119	129	181	191	26	825	34.6
%	0.4	1.8	3.3	7.0	9.2	14.4	15.6	21.9	23.2	3.2	標準偏差	19.2

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 26 年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音問題 正答率 46.9% 【2】語彙問題 正答率 47.9%）

ア -ou- をつづりに含む単語(cousin, mouth など)や、-a- をつづりに含む単語(anything, dangerous など)において、短母音と二重母音の区別ができていない。

イ 教科書で繰り返し使われており、なじみのある語(answer, weather など)であっても、正確なつづりを書くことができない。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 55.7% 【4】文法・表現問題 正答率 42.9%）

ア would you like to を用いて相手の意向などを尋ねる表現はよく定着している。一方、接続詞 though などの意味や用法の理解は十分ではない。

イ 文法的な知識（疑問詞+to 不定詞など）を活用して多様な表現をすることができない。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 45.8%）

問いかげや依頼の場面において、Can I ~ ? / Can you ~ ? / Could you ~ ? / May I ~ ? 等の表現を適切に用いることができない。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 55.2%）

enjoy+動名詞を用いた表現や、不定詞の形容詞的用法を用いた表現はできるようである。しかし、主語における後置修飾（接触節）の用法が定着しておらず、The book he bought last year is very popular.といった表現ができない。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 51.2%）

複数の登場人物の行動や心情を整理しながら、物語の展開を正しく捉えることが十分にはでき

ていない。

(6) 聞き取りの力 (【8】聞き取り問題 正答率 59.1%)

夏休みの計画についての会話を題材とした。会話の概要は理解できているが、情報を断片的に捉えてしまい、順を追って正確に聞き取ることができていない。

5 統計資料

(1) 人数、平均点及び標準偏差

〔表2〕は、人数、平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成26年度は、昨年度と比較して、調査校全体で平均点は5.8点下降し、標準偏差は0.7ポイント下降している。

人数、平均点及び標準偏差の推移 [表2]

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人数	29,980	30,555	30,474	32,015	31,050	30,914	31,305	31,759	31,976
全体	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2
標準偏差	22.7	22.4	23.2	21.4	25.0	23.6	23.2	24.1	23.4
普通科	67.4	62.0	57.1	58.5	63.0	64.0	63.2	59.0	52.9
標準偏差	22.3	22.0	22.7	21.2	24.5	23.1	22.7	23.9	23.4
総合学科		42.1	35.1	42.7	43.9	44.7	44.9	41.5	40.0
標準偏差		17.3	16.0	15.9	20.5	19.1	19.5	18.1	16.9
商業科系	47.9	43.6	34.3	40.9	42.9	44.3	43.1	40.0	38.7
標準偏差	16.7	15.3	15.0	14.1	19.0	16.9	16.8	16.0	15.4
家庭科系	48.7	43.7	37.0	40.3	38.9	43.3	41.8	38.1	31.9
標準偏差	20.3	18.4	15.5	15.9	19.7	19.0	18.4	16.9	15.6
英語科系	88.0	77.0	74.5	71.8	78.2	81.1	77.3	79.4	73.5
標準偏差	10.1	15.8	18.5	17.6	20.1	15.0	17.0	16.1	17.5
工業科系	48.4								
標準偏差	19.3								
他の学科	48.5	42.0	31.1	35.0	37.8	40.1	40.3	37.6	34.6
標準偏差	20.6	20.1	19.4	19.3	21.3	20.5	21.1	20.1	19.2

(注1) 平成18年度以前の「総合学科」及び平成19年度以降の「工業科系」は、「他の学科」に含む。

(注2) 平成21年度については、約10年前の生徒の学力との比較のため平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

(2) 平成26年度学校平均点の分布状況

〔表3〕は、学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお、普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)は、74.0点(最高点88.0-最低点14.0)となっている(〔表4〕)。

学校平均点の分布状況 [表3]

得点域	-90	-85	-80	-75	-70	-65	-60	-55	-50	-45	-40	-35	-30	-25	-20	-15	-10	-5	合計
全体	0	4	4	3	5	9	10	8	13	11	14	14	10	13	14	7	3	0	142
普通科	0	4	3	3	5	8	9	6	10	8	8	8	6	9	8	5	1	0	101
総合学科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	5
商業科系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	1	0	0	0	0	7
家庭科系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	1	3	0	1	0	13
英語科系	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
他の学科	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	1	3	2	1	0	12

(注) 受験者数10名未満の学校(学科・コース)は含まれていない。

普通科における学校平均点較差（最高点－最低点）の推移 [表4]

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
得点差	76.3	74.0	72.1	72.4	78.1	76.0	74.9	77.2	74.0

(3) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

[表5]は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【1】発音と【5】口語表現の正答率が低いことが分かる。

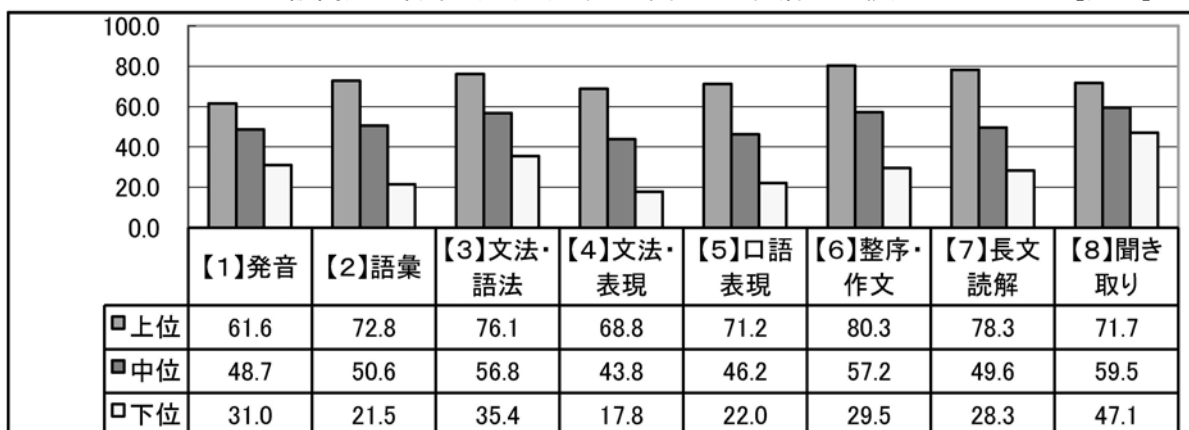
設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較) [表5]

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
抽出人数	3,075	3,108	3,102	3,252	3,158	3,284	3,227	3,204	3,265
全設問	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2
【1】発音	43.6	63.9	54.2	53.3	48.5	65.4	45.2	66.6	46.9
【2】語彙	58.7	59.6	44.5	53.0	54.0	46.4	50.6	41.2	47.9
【3】文法・語法	71.3	57.3	71.1	55.5	67.2	68.8	79.0	67.0	55.7
【4】文法・表現	63.9	54.4	49.4	42.6	66.8	47.9	53.3	40.3	42.9
【5】口語表現	89.9	62.4	67.6	86.4	76.7	70.7	74.4	73.5	45.8
【6】整序・作文	55.9	54.6	49.1	42.8	56.3	65.7	55.6	55.2	55.2
【7】長文読解	65.3	61.5	51.5	54.8	62.3	61.8	63.7	52.7	51.2
【8】聞き取り	79.0	65.7	52.7	72.1	50.6	60.0	70.7	75.1	59.1

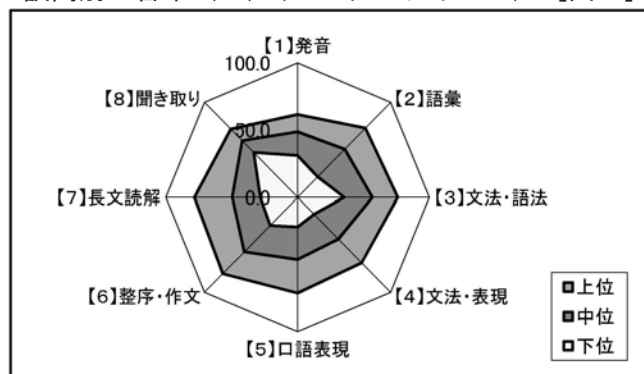
(4) 平成26年度設問別正答率 (上位・中位・下位層の比較)

[図1]は、調査校147校(学科・コース)から抽出した3,265名中の学校平均点上位28校(偏差値55以上)に所属する946名(上位層)、学校平均点中位53校(偏差値45以上55未満)に所属する1,292名(中位層)及び学校平均点下位66校(偏差値45未満)に所属する1,027名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率 (%) (上位・中位・下位層の比較) [図1]



設問別正答率 (%) (レーダーチャート) [図2]



[図2]は[図1]をレーダーチャートにしたものである。各設問における各層の正答率を見ると、設問【2】語彙、【4】文法・表現で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。一方、設問【1】発音、【8】聞き取りでは、各層の差が小さくなっている。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別を測る。					
【1】 次の(1)～(5)の語について、下線部の発音が同じものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。					
(1) wood	[ア book	イ food	ウ moon	エ tool]
(2) cloth	[ア either	イ other	ウ these	エ third]
(3) opened	[ア looked	イ played	ウ stopped	エ waited]
(4) young	[ア around	イ cousin	ウ found	エ mouth]
(5) change	[ア anything	イ dance	ウ dangerous	エ orange]
配点 10点 (各2点)					
正解 (1) ア (2) エ (3) イ (4) イ (5) ウ					

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全体 3,265	普通科 2,887	総合学科 124	商業科系 80	家庭科系 77	英語科系 17	他の学科 80
(1) wood	46.9	61.7	63.5	53.2	43.8	39.0	45.0
(2) cloth		58.0	59.3	48.4	48.8	48.1	43.8
(3) opened		55.1	56.5	44.4	46.3	35.1	42.5
(4) young		25.1	25.6	16.1	22.5	10.4	27.5
(5) change		34.6	35.7	33.1	18.8	22.1	23.8

本年度は、小問(1)、(4)、(5)を母音に関する問題、(2)、(3)を子音に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、調査校全体の正答率)は46.9%であった。

以下、平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(分析答案)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	記号	発音	各誤答数	小問	誤答数	記号	発音	各誤答数
(1) wood [u]	40	ア	正答 book	/	(4) young [ʌ]	77	ア	[au]	22
		イ	[u:]	20			イ	正答 cousin	/
		ウ	[u:]	7			ウ	[au]	23
		エ	[u:]	13			エ	[au]	32
		無答		0			無答		0
(2) cloth [θ]	46	ア	[ð]	17	(5) change [ei]	62	ア	[e]	27
		イ	[ð]	5			イ	[æ]	10
		ウ	[ð]	24			ウ	正答 dangerous	/
		エ	正答 third	/			エ	[i]	24
		無答		0			無答		1
(3) opened [d]	47	ア	[t]	15					
		イ	正答 played	/					
		ウ	[t]	19					
		エ	[id]	13					
		無答		0					

<考察>

小問(1)は、-oo- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は61.7%であった。誤答40例のうち20例が **イ** food, 13例が **エ** tool であった。これは、**wood** の下線部の発音 [u] を正しく理解していないためと思われる。

小問(2)は、-th- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は58.0%であった。見出し語 **cloth** の発音は十分に理解されているとは言えない。

小問(3)は、規則動詞の活用 -ed の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は55.1%であった。誤答は分散しており、-ed の発音の違いは十分には理解されていないようだ。

小問(4)は、-ou- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は25.1%と本問中最も低かった。誤答は分散しており、**イ** **cousin** の発音が定着していないためと思われる。

小問(5)は、-a- の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は34.6%とかなり低かった。誤答62例のうち、27例は **ア** anything, 24例は **エ** orange であった。これは **change** の二重母音 [ei] を正しく理解していないためであると思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)、(5)に見られるように、同じつづりの短母音と二重母音の区別ができていない。

<具体的な指導例>

つづりと発音の関係を示しながら、言語活動を通して正確な発音を身に付けさせる。特に注意させたいつづりについては次のような文章を示し、音読活動やペアワークを通して慣れさせる。

【言語活動の例】

身に付けさせたい発音を含む語を使った文を作り、内容に関する質問をする。生徒は正しい発音で質問に答える。

【文と質問の例】

Yesterday, my cousin visited me. She was good at cooking and made enough soup for four people. The soup was too hot and I burned my mouth. After that we decided to eat oranges for dessert. She tried to cut the orange without the cutting board, but she cut her finger. I thought it dangerous to cut anything without a cutting board.

質問 1 Who visited me yesterday?

質問 2 What did my cousin make?

質問 3 What happened after I ate the soup?

質問 4 What did she try to cut?

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) This question is very difficult. I can't (a) it.
- (2) I saw the baseball game (b) the Giants and the Tigers.
- (3) When you travel (a), you have to get a passport.
- (4) The (w) in Tokyo today is sunny.
- (5) What are you going to do (d) the summer vacation?
- (6) A: You look tired. What's wrong?

- B: This morning I got up very (e) to take the first train.
- (7) A: My mother is out now. Do you want to leave a (m)?
B: No, thank you. I'll call her back later.
- (8) A: What (c) do you want to visit?
B: I want to visit Korea.
- (9) A: I think this movie is very interesting. Do you (a) with me?
B: Yes, of course.
- (10) A: What is your (f) sport?
B: I like soccer the best.

配点: 10 点 (各 1 点)

正解 (1) answer (2) between (3) abroad (4) weather (5) during
(6) early (7) message (8) country (9) agree (10) favorite

<抽出答案における【2】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,265	普通科 2,887	総合学科 124	商業科系 80	家庭科系 77	英語科系 17	他の学科 80	
(1) answer	47.9	68.9	71.3	59.7	42.5	46.8	58.8	45.0
(2) between		20.5	21.6	8.1	11.3	10.4	52.9	10.0
(3) abroad		25.5	26.9	16.1	13.8	6.5	64.7	11.3
(4) weather		56.0	57.6	47.6	48.8	35.1	94.1	31.3
(5) during		52.3	54.7	37.9	32.5	26.0	82.4	26.3
(6) early		63.8	65.8	58.1	38.8	42.9	82.4	40.0
(7) message		52.8	54.9	41.9	27.5	23.4	88.2	40.0
(8) country		53.4	55.2	46.8	35.0	26.0	82.4	33.8
(9) agree		18.6	19.6	10.5	6.3	6.5	52.9	13.8
(10) favorite		67.0	68.5	65.3	58.8	42.9	94.1	43.8

調査校全体の正答率は 47.9%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	26 年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(3) abroad	25.5	34.6(23 年度)
(4) weather	56.0	62.0(22 年度) 55.2(20 年度) 61.5(17 年度) 42.1(14 年度)
(5) during	52.3	52.9(25 年度) 39.4(19 年度) 38.4(15 年度)
(6) early	63.8	40.3(21 年度) 39.2(12 年度)
(8) country	53.4	69.1(13 年度)
(10) favorite	67.0	66.8(22 年度) 63.3(19 年度) 62.2(17 年度)

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り(数)	その他の誤り(数)	無答
(1) answer	39	23 anser(10), ansewr(3), ancer(2), anther(2)等	14 about(3), am(2), anything(2)等	2
(2) between	95	0	78 both(16), by(14), because(13), battle(5), but(4)等	17
(3) abroad	89	4 abroud(3), areload(1)	53 and(9), around(8), among(4)等	32

(4) weather	57	31	wether (18), wather (5), weter (2), weaser (2) 等	17	went (5), west (2) 等	9
(5) during	68	11	duaring (4) 等	36	doing (25), drive (6), date (1) 等	21
(6) early	34	19	eary (5), ealry (4) 等	11	easy (6), enough (1) 等	4
(7) message	57	20	massage (8), messege (4), masseage (3) 等	29	me (5), mother (5), mean (3), money (2) 等	8
(8) country	50	7	contry (3), countly (2) 等	29	can (9), come (6), could (5), city (3) 等	14
(9) agree	92	0		51	about (7), among (6), anything (4), another (5) 等	41
(10) favorite	46	25	favorit (7), faborite (2), fevorite (2), fevertie (2) 等	16	famous (7), from (2) 等	5

<考察>

小問(1)から(5)は文中の適語補充問題、(6)から(10)は対話文中の適語補充問題となっている。

小問(1) answer の調査校全体の正答率は本問中 68.9%で最も高かった。誤答 39 例のうち、「つづりの誤り」は 23 例であった。日常生活でもなじみのある単語であり、多くの生徒が文意は理解したようである。

小問(2) between の調査校全体の正答率は 20.5%で低かった。誤答 95 例のうち無答が 17 例、「その他の誤り」が 78 例であった。between は定着していないようである。

小問(3) abroad の調査校全体の正答率は 25.5%で低かった。誤答 89 例のうち、「つづりの誤り」は 4 例のみで、無答が 32 例と多く、abroad は定着していないようである。

小問(4) weather の調査校全体の正答率は 56.0%であった。誤答 57 例のうち、「つづりの誤り」が 31 例あり、意味は分かっているが、正確につづることができなかった。中学校の教科書では NEW HORIZON 1 Unit 7 をはじめ 5 箇所に使われており、認知度が高いと思われる。

小問(5) during の調査校全体の正答率は 52.3%であった。during the summer vacation という表現にはなじみがあると思われるが、正しく答えることができなかった。「その他の誤り」には、doing が多く、during を思いついたが正しくつづることができない生徒もいたと考えられる。

小問(6) early の調査校全体の正答率は 63.8%であった。誤答 34 例のうち「つづりの誤り」は 19 例あり、比較的多くの生徒が「始発の電車に乗るために早く起きた」という状況を理解したようである。get up early という表現は NEW HORIZON 3 Unit 4 など繰り返し使われており、定着度が高いと思われる。

小問(7) message の調査校全体の正答率は 52.8%であった。誤答 57 例のうち「つづりの誤り」が 20 例であった。leave a message という表現は、電話での応答表現としてなじみがあるようである。

小問(8) country の調査校全体の正答率は 53.4%であった。誤答 50 例のうち「その他の誤り」が 29 例であったことにくわえ、無答も 14 例と多く、country という語を思いつかなかったようである。

小問(9) agree の調査校全体の正答率は 18.6%で本問中最も低かった。誤答は 92 例に上り、「その他の誤り」51 例のうち about や another や among のように品詞を理解していない誤答が 44 例あった。また無答も 41 例と非常に多く、agree with という表現はあまり定着していないように思われる。

小問(10) favorite の調査校全体の正答率は 67.0%であった。誤答 46 例のうち「つづりの誤り」は

25 例あり、「一番好きなスポーツは何か」という問いかけを理解したが、正確につづることができなかった。好きな科目やスポーツなどを問う表現はかなり定着していると思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

- ① 小問(1), (4), (5), (7), (10)に見られるように、教科書で繰り返し使われており、なじみのある語であっても、正確なつづりを書くことができない。
- ② 小問(2), (3), (9)に見られるように、文脈や対話に応じて適切な語彙を用いて表現することができない。

<具体的な指導例>

- ① 定着させたい語を用いてペアワークを十分に行ってから、自分の考えをワークシートなどに書かせて正しいつづりを覚えさせる。

【例】

A: What are you going to do during the summer vacation?

B: I am going to visit my grandmother during the summer vacation. She lives in Hiroshima.

How about you?

A: I am going to study English hard during the summer vacation. I want to improve my English.

- ② テーマを与えて1分間で自分の意見をまとめさせ、ペアで意見交換させる。各ペアで行った意見交換を発表させる。

【例】

テーマ: Electronic dictionaries are better than printed dictionaries

A: I think electronic dictionaries are better than printed dictionaries because electronic dictionaries are lighter and easier to carry. Do you agree with me?

B: I agree with you. Finding words in electronic dictionaries is easy.

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、ア～エから最も適当な語(句)を選び、記号で答えなさい。

(1) (ア Because イ But ウ So エ Though) he looked for his book, he couldn't find it.

(2) (ア Are イ Do ウ Have エ Is) English and Chinese spoken in Singapore?

(3) The beautiful river runs (ア among イ over ウ through エ without) the town.

(4) A: What (ア may イ must ウ should エ would) you like to drink?

B: May I have some coffee?

(5) A: Is the tall boy your brother?

B: No. The boy (ア drank イ drinking ウ drinks エ drunk) water over there is my brother.

配点：10点(各2点)

正解 (1) エ (2) ア (3) ウ (4) エ (5) イ

<抽出答案における【3】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,265	普 通 科 2,887	総合学科 124	商業科系 80	家庭科系 77	英語科系 17	他の学科 80	
(1) Though	55.7	23.9	25.1	12.9	15.0	9.1	58.8	10.0
(2) Are		50.0	52.3	35.5	25.0	26.0	76.5	30.0
(3) through		40.8	43.0	27.4	18.8	22.1	64.7	18.8
(4) would		88.5	89.4	91.1	85.0	71.4	94.1	72.5
(5) drinking		75.2	77.1	71.0	65.0	46.8	94.1	46.3

調査校全体の正答率は 55.7%であった。

<過年度類題正答率 (%)>

小問	26年度正答率	過年度正答率 (出題年度)		
(3) 前置詞 through の用法	40.8	64.8 (18年度)		
(5) 現在分詞の用法(後置修飾)	75.2	49.2 (22年度)	81.3 (16年度)	78.5 (15年度)

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) Though	78	28	25	25	正答	0
(2) Are	58	正答	5	43	10	0
(3) through	74	29	36	正答	9	0
(4) would	9	4	1	4	正答	0
(5) drinking	27	5	正答	17	5	0

<考察>

小問(1)は、文脈に合う適切な接続詞 **Though** を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 23.9%と本問中最も低く、誤答は分散していた。これは、問題文の「,」の前後にある文の関係を正しく捉えることができず、**Though** の意味や用法についても十分に理解していないためと考えられる。

小問(2)は、受動態の疑問文における **be** 動詞を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 50.0%であった。誤答 58 例中 43 例が **ウ Have** であった。これは、文意を理解せずに、現在完了の疑問文 **Have ~ spoken...?** と誤って判断したためと思われる。

小問(3)は、前置詞 **through** を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 40.8%と低く、誤答は分散していた。平成 18 年度にも **through** を選ぶ問題が出題されたが、文意が読み取りやすく、正答率は 64.8%と高かった。本年度は「町と町の間」や「町中」と誤って文意を捉えた生徒が多く、正答率が低くなったと考えられる。

小問(4)は、助動詞 **would** を選ぶ問題である。正答率は 88.5%と本問中最も高かった。**would you like to** を用いて相手の意向などを尋ねる表現はよく定着している。

小問(5)は、後置修飾の現在分詞 **drinking** を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 75.2%とよくできていた。主語を修飾する現在分詞の用法は定着している。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1)に見られるように、接続詞の用法が十分理解できていない。

<具体的な指導例>

接続詞を用いた例文をいくつか提示した上で、以下の()に入る表現を生徒に考えさせてペアで対話させる。その活動を通して、前後の文のつながりを理解させながら接続詞の用法の違いに気付かせる。

【**though** や **but**, **because** や **so** を用いる対話例】

A: Do you know Tom had a traffic accident this morning?

B: Really? Is he OK?

A-1: Though he broke his leg, (1).

A-2: Because he broke his leg, (2).

B: I heard he is planning to go to USJ in Osaka during the summer vacation.

A-1: Oh! Poor Tom! He has long wanted to visit there, but (3).

A-2: Oh! Poor Tom! He has to be in the hospital until the end of August, so (4).

・(1)～(4)に入る表現の例: (1) his life is not in danger (2) he is now in the hospital

(3) unfortunately he has to be in the hospital until the end of August (4) he can't go there for some time

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の**ア**と**イ**の文の内容がほぼ同じになるように、()内に最も適当な語を一つずつ書きなさい。

(1) **ア** Linda is a girl with long hair.

イ Linda is a girl () has long hair.

(2) **ア** When I read the letter, I was surprised.

イ I was surprised ()() the letter.

(3) **ア** What is the name of this food?

イ What do you () this food?

(4) **ア** When I hear her songs, I feel happy.

イ Her songs ()() happy.

(5) **ア** Please tell me where I should buy the ticket.

イ Can you tell me ()() buy the ticket?

配点：15点（各3点，部分点なし）

正解 (1) (who / that) (2) (to) (read) (3) (call)

(4) (make) (me) (5) (where) (to)

<抽出答案における【4】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科	
小問	3,265	2,887	124	80	77	17	80	
(1) who / that	42.9	67.4	69.6	60.5	43.8	40.3	94.1	40.0
(2) to read		45.6	47.7	29.8	26.3	27.3	70.6	26.3
(3) call		28.0	29.8	8.9	15.0	3.9	70.6	20.0
(4) make me		37.0	38.8	30.6	18.8	16.9	41.2	17.5
(5) where to		36.3	38.0	31.5	18.8	18.2	58.8	15.0

調査校全体の正答率は42.9%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	26年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(2) 副詞節→不定詞 When I read the letter, ~.	45.6	41.6(24年度) When we heard the news, we were sad. → We were sad (to) (hear) the news.

→ ~ (to) (read) the letter.		49.9 (16年度) ~glad when I heard the news. → ~ glad (to) (hear) the news.
(3) 動詞 call の用法 What is the name of ~ ? → What do you (call) ~ ?	28.0	38.8 (23年度) What is the name of this fish ~ ? → What do you (call) this fish ~ ? 65.4 (18年度) The name of the animal is ~ . → (call) the animal ~ . 39.7 (17年度) What is the name of this flower? → What do you (call) this flower?
(4) make + O + C	37.0	55.8 (25年度) I was happy to hear the news. → The news (made) (me) happy. 40.4 (20年度) When I watched the baseball game, I was excited. → The baseball game (made) me excited.
(5) 疑問詞 + to 不定詞	36.3	77.2 (22年度) She cannot play the guitar. → She doesn't know (how) (to) play the guitar. 39.7 (21年度) I don't know what I should see in Kyoto. → I don't know (what) (to) see in Kyoto.

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	誤答例 (数)	無答
(1) who / that	17	to (3), she / her (3), and (2), has / having (2), その他(4)	3
(2) to read	53	when read (35), I read (4), because read (2), when / is / by / at reading (4), その他(6)	1
(3) call	83	know (38), name (25), called (9), mean (4), say (3), その他(3)	1
(4) make me	61	makes me (41), made me (9), その他(9)	0
(5) where to	69	how to (38), where should (11), where I (5), should I (3), その他(7)	3

<考察>

小問(1)は、関係代名詞 **who / that** の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は67.4%と本問中最も高かった。関係代名詞のこの用法は定着しているようである。

小問(2)は、感情の原因を表す **to** 不定詞を使って表現する問題である。調査校全体の正答率は45.6%であった。全ての誤答で **to** 不定詞を用いておらず、不定詞のこの用法は定着していないと思われる。

小問(3)は、物の名前を尋ねるために **call** を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は28.0%と本問中最も低かった。誤答83例中 **know** が38例と多く、名前を知っているか尋ねる場面と混同したようである。

小問(4)は、**make + O + C** を問う問題である。調査校全体の正答率は37.0%であった。誤答61例のうち50例は **makes / made** と **me** を使って表現していた。**make + O + C** は理解していると思われるが、時制や主語に応じて動詞 **make** を適切な形で使用することができなかつたと考えられる。

小問(5)は、**where + to** 不定詞を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は36.3%であった。誤答69例のうち38例は **how to** であった。文意を正しく理解して、疑問詞 + **to** 不定詞を適切に用いることができなかつたとと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3), (5)に見られるように、文法的な知識を活用して多様に表現することができない。

<具体的な指導例>

習得させたい表現を使用する場面を設定し、ペアでスキットを作成して発表させたり、クイズ形式でやりとりをさせたりする。

【疑問詞 + to 不定詞を使ったペアワークの例】

(NEW HORIZON 3 Listening Plus 1 のボランティア活動の案内を用いて)

A: Let's join the volunteer activity together this weekend.

B: Sounds good, but I don't know what to do.

A: We collect trash.

B: Please tell me where to go.

A: We go to the beach or the parks.

B: Please tell me what to bring.

A: We bring gloves and a towel.

B: OK. Let's decide when and where to meet.

A: Let's meet in front of the community center at 9 a.m.

【call を使用して名前を当てさせるクイズの例】

(NEW HORIZON 3 「Bonus Word Box ③ 職業」を用いて)

A: This is the name of the job. She works at a hospital. Her job is to take care of sick people. What do you call her?

B: We call her a nurse.

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Ami (生徒) と Ms. Lee (先生) の対話です。(1)~(5)に入る最も適当な表現を下のア～コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Ami : Excuse me, Ms. Lee. (1)

Ms. Lee : Sure. What is it?

Ami : I got an e-mail from an American friend. But I can't understand these words. What do ASAP and CU mean?

Ms. Lee : (2) You often use them in the last part of a letter or an e-mail.

Ami : Um... it's too difficult!

Ms. Lee : Well, CU is easier, I think. What do you think of the sounds of CU?

Ami : Sounds? (3) That means "See you."

Ms. Lee : Right. As for ASAP, A means "as."

Ami : Let's see. That's "as small as"... or "as slowly as"... No. I can't find it.

Ms. Lee : For example, when you write a letter or an e-mail to your friend, what is your last sentence?

Ami : (4) Or I hope to hear from you soon.

Ms. Lee : You know what S means.

Ami : Oh, that means "as soon as possible." I have to send an e-mail back now. (5)

Ms. Lee : No problem. Let's finish it ASAP!!

ア Can you guess?

イ Can I help you?

ウ Could you check it?

エ May I ask you a favor?

オ How about you?

カ Why don't you come with us?

キ My pleasure.

ク I got it!

ケ See you soon.

コ I'd love to.

配点：10点（各2点）

正解 (1) エ (2) ア (3) ク (4) ケ (5) ウ

<抽出答案における【5】小問別正答率（%）>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科	
小問	3,265	2,887	124	80	77	17	80	
(1) May I ask you a favor?	45.8	53.4	55.0	48.4	36.3	31.2	76.5	37.5
(2) Can you guess?		30.2	31.5	21.8	17.5	18.2	58.8	15.0
(3) I got it!		62.5	64.2	57.3	45.0	37.7	88.2	43.8
(4) See you soon.		53.8	56.3	38.7	27.5	26.0	82.4	36.3
(5) Could you check it?		29.2	30.1	25.0	20.0	15.6	70.6	17.5

調査校全体の正答率は45.8%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) May I ask you a favor?	59	2	36	13	正答	5	1	0	0	0	0	2
(2) Can you guess?	84	正答	4	15	8	9	2	10	21	1	12	2
(3) I got it!	43	5	2	6	2	7	1	4	正答	5	7	4
(4) See you soon.	64	5	4	5	9	4	5	11	6	正答	10	5
(5) Could you check it?	78	9	8	正答	6	4	10	13	3	8	13	4

<考察>

小問(1)は、Ami(生徒)がMs. Lee(先生)に頼み事をする場面である。調査校全体の正答率は53.4%であった。誤答59例のうち、イ Can I help you? を選んだ誤答が36例と半数以上を占めていた。頼み事をする表現 May I ask you a favor? と、援助を申し出る表現 Can I help you? を区別できていないようである。

小問(2)は、ASAP と CU の意味を尋ねる Ami に対して、Ms. Lee が「(それらの語の意味を)推測できますか」と問う場面である。調査校全体の正答率は30.2%とかなり低かった。誤答84例のうち、ク I got it! を選んだ誤答が21例と最も多かった。Ms. Lee が Ami に語意を推測させるためのヒントを与えるという対話の展開を正確に理解できなかったと思われる。

小問(3)は、Ami が CU の意味に気付く場面である。調査校全体の正答率は62.5%と本問中最も高かった。That means “See you.” までの対話の流れを理解できていたようである。

小問(4)は、Ami が友人宛ての手紙やメールの結びの文について述べる場面である。調査校全体の正答率は53.8%であった。誤答は分散しており、直前の Ms. Lee の問いかけの内容を的確に捉えられなかったと考えられる。

小問(5)は、Ami が Ms. Lee に、メールの返信の手伝いを依頼する場面である。調査校全体の正答率は29.2%と本問中最も低かった。誤答は分散しており、直後の No problem. Let's finish it ASAP!! という Ms. Lee の応答から、依頼の内容を読み取ることができなかったと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1), (2), (5)に見られるように、問いかけや依頼の場面において、Can I ~ ? / Can you ~ ? / Could you ~ ? / May I ~ ? 等の表現を適切に用いることができない。

<具体的な指導例>

活用させたい表現と、それをういた対話例を示した後、ペアやグループでスキットを考えさせ、発表させる。その上で、生徒同士で相互評価させる。

【表現・応答例】

May I ask you a favor? — Sure. What is it?

Could you help me? — Of course. What can I do for you?

Will you lend me your notebook? — No problem. You can use this.

【表現を用いた対話例】 (on the phone)

Koji : Hello. May I speak to Yumi?

Yumi : This is Yumi.

Koji : Hi, this is Koji. Can I talk with you now?

Yumi : Sure. What's the matter?

Koji : I'm going to visit Okinawa with my family next month.

Could you take care of my dog while we are on a trip?

Yumi : No problem. I love dogs. By the way, will you buy me something special in Okinawa?

Koji : Of course. Thank you for your kindness.

Yumi : You're welcome.

【ペア・グループ活動と評価】

表現・応答例やそれをういた対話例を示した後、別の場面でのスキットを考えさせ、発表させる。以下のような場面を書いた紙をくじのように選ばせるとよい。発表後に感想を述べさせ合い、「ベスト・パフォーマンス・ペア（グループ）」を選ばせる。

【活用させたい場面例】 at home / at school / at the library / at the party / at the shop / at the station

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の(1)～(3)の日本語の意味を表すように、下に与えられた語を全部用いて、英文を作りなさい。また、(4)は下線部(A)と(B)の日本語を英文に直しなさい。

(1) 私は京都の有名な寺を見て楽しんだ。

[enjoyed / famous / I / in / Kyoto / seeing / temples]

(2) 私には助けてくれる友達がたくさんいます。

[friends / have / help / I / many / me / to]

(3) 彼が去年買った本はとても人気があります。

[book / bought / he / is / last / popular / the / very / year]

(4) 「(A)今日はひまですか。」

「特に予定はありません。」

「それならスカイタワーに行きませんか。(B)私はそこに一度も行ったことはありません。」

配点：15点（各3点 部分点なし）

正答 (1) I enjoyed seeing famous temples in Kyoto.

(2) I have many friends to help me.

(3) The book he bought last year is very popular.

- (4) (A) Are you free today?
 (B) I have {never/not} been there.

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,265	普 通 科 2,887	総 合 学 科 124	商 業 科 系 80	家 庭 科 系 77	英 語 科 系 17	他 の 学 科 80	
(1)	55.2	81.1	82.4	80.6	76.3	51.9	63.8	
(2)		70.7	71.9	66.9	62.5	53.2	51.3	
(3)		35.0	37.3	20.2	15.0	5.2	15.0	
(4)		(A)	62.5	64.5	51.6	55.0	33.8	33.8
		(B)	26.6	28.5	18.5	2.5	2.6	11.3

小問(1)～(3)は整序問題、小問(4)は日本語の内容を英語で表現させる形式とした。調査校全体の正答率は55.2%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	26年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(3) 後置修飾 (接触節)	35.0	78.4(23年度) This is the book I bought yesterday. 37.1(22年度) The book she wrote last year is very popular. 79.3(19年度) This is the book I bought yesterday. 30.0(16年度) The woman you met at the party is my aunt.
(4) (A) 疑問文 (be動詞)	62.5	27.6(19年度) Are you free this afternoon?
(4) (B) 現在完了 (経験)	26.6	35.2(25年度) I have been to seven countries. 35.4(24年度) Have you ever read them? 72.8(22年度) Have you ever been to Okinawa? 36.0(19年度) I have never been there.

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数	
(1)	5	
(2)	17	
(3)	70	
(4)	(A)	23
	(B)	75

<考察>

小問(1)は、enjoy+動名詞の形を用いて、「～することを楽しむ」という表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は81.1%と高かった。この用法は定着している。

小問(2)は、不定詞の形容詞的用法を用いた表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は70.7%と高かった。この用法はほぼ定着している。

- | | | |
|-------|---------------------------------|-----|
| 誤答例 ① | I have many friends help to me. | 10例 |
| ② | I have many friends to me help. | 2例 |

誤答例のように、不定詞の形を正しく作れない者も見られた。

小問(3)は、後置修飾(接触節)を用いた表現ができることを確かめる問題である。調査校全体の正答率は35.0%と低かった。

- | | | |
|-------|---|-----|
| 誤答例 ① | He bought the book last year is very popular. | 39例 |
| ② | The book is very popular he bought last year. | 17例 |
| ③ | He bought the book is very popular last year. | 8例 |

誤答 70 例のうちほとんどが The book he bought ... と書けていなかった。平成 19 年度、23 年度の設問（正答: This is the book I bought yesterday.）の正答率が高かったことと比較すると、主語における後置修飾（接触節）の用法が定着していないと言える。

小問(4)(A)は、相手の都合を聞く表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 62.5%であった。正答率から考えると、Are you free?はある程度なじみのある表現だと思われる。

誤答例 ① Do you free today?	5 例
② Are you free?	4 例
③ Are you free on today?	2 例

小問(4)(B)は、現在完了を用いて自分の経験を述べる表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 26.6%と本問中最も低かった。

誤答例 I have never been to there.	55 例
---------------------------------	------

誤答 75 例のうち 55 例が I have never been の形はできていても副詞 there を正しく使うことができなかった。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3)のように、主語における後置修飾（接触節）が定着していない。

<具体的な指導例>

① 生徒が各自で世界地図を準備し、グループワークで一人ずつ任意の国を指しながら、例のような表現を用いて、行ってみたい国や行ったことのある国について発表する。他の生徒は、その発表を聞いて、聞き取った表現をノートに書き留めながらどこの国かを答える。

【例】

A: It's a big country. I want to visit it someday. What country is it? (Australia)

B: It's a neighboring country. I have been there twice. What country is it? (Korea)

C: It's called Land of smiles. I like the country very much. What country is it? (Thailand)

D: It has a large population. About one billion people live there. What country is it? (China)

② 一人ずつ例のような表現を使い、話題になった国について他の生徒に伝える。

【例】

B: The country A wants to visit someday is Australia. It's a big country in Oceania.

C: The country B has been to twice is Korea. Have you ever been there?

D: The country C likes very much is Thailand. I'm sure you'll enjoy living there.

A: The country about one billion people live in is China. It's the biggest country in Asia.

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Mrs. Brown was a good cook. Her soup was famous in her town. Everyone loved "Mrs. Brown's soup."

One day, she invited a lot of people to her house to celebrate her father's 70th birthday. Before the party, she and her three daughters were all very busy.

"Judy, please go to the market and buy some flowers for the party. Ann, I want you to make a cake for

dessert. Lisa, will you move the table and chairs from the kitchen to the living room? Then, we will have two tables in the living room. (1) I want you to put all the chairs around each table.”

Mrs. Brown made the soup and put it on the stove. Then she began to clean the floor. After a while, (2) she suddenly stopped. She shouted, “I didn’t put any salt into the soup! ア ” She called one of her daughters to help her.

“Judy, will you put salt into my soup? イ My hands are not clean.”

“Sorry, Mom. (3) I have to leave now. The market will be closed soon.”

“Ann, will you go and put salt into my soup?”

“I can’t, Mom. I’m very busy. Please ask someone else. ウ ”

“Lisa, go and put salt into my soup, please.”

“I don’t want to move, Mom. I’m very tired. エ ”

So, Mrs. Brown stopped cleaning the floor, washed her hands, and put salt into the soup. Then she began (4) her work again.

Later Judy came back and thought, “Now I can help Mom.”

Ann began to think, “Mom is the busiest person in this house. I should help her.”

Lisa began to feel sorry for her words to her mother.

That night the guests sat at the tables. They were looking forward to her special soup. Everyone looked (5). “Happy birthday, Dad,” said Mrs. Brown and gave her father the first dish. He smiled and ate the soup. Suddenly his eyes got big, and he drank his glass of water. “(6)” he said.

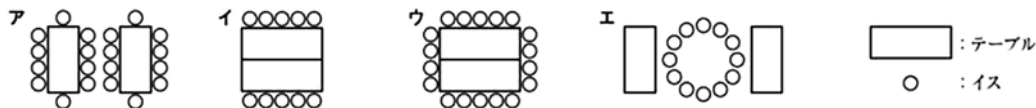
Mrs. Brown wondered why he needed a lot of water and she ate the soup. Then she knew the reason.

“Who put salt into this soup?”

“I did, Mom,” all three said together.

(注) stove 「こんろ」 guest(s) 「客」 dish 「料理」

問 1 下線部(1)の示すテーブルとイスの配置として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。



問 2 下線部(2)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because she finished cleaning the floor.
- イ Because she remembered something important.
- ウ Because she was very tired.
- エ Because she needed her father’s help.

問 3 下線部(3)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because she has to buy a cake before the market is closed.
- イ Because her hands are not clean.
- ウ Because she has to go shopping soon.
- エ Because she has to clean the floor.

問 4 下線部(4)の内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア to clean the floor
- イ to move the table and chairs
- ウ to go to the market
- エ to make a cake for dessert

問 5 空所(5)に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア angry
- イ excited
- ウ sad
- エ surprised

問 6 空所(6)に入る英文として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Can I have another glass of water?
- イ Please pass me the salt.
- ウ Shall I help you?
- エ This water tastes strange.

問 7 It was very hard for me to move all the chairs and the table alone. の入る場所として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

ア ア イ イ ウ ウ エ エ

問 8 次の質問に対する答えとして最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

How many people put salt into the soup?

ア One. イ Two. ウ Three. エ Four.

問 9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。

ア Mrs. Brown invited a lot of people to her house for her birthday party.

イ Ann asked someone else to make a cake because she was busy.

ウ Mrs. Brown's hands were not clean because she made the soup.

エ Lisa had to get some flowers for the party.

オ When Judy put salt into the soup, she didn't know that someone else did so.

カ Mrs. Brown's father liked the cake better than the soup.

キ Nobody ate the soup before Mrs. Brown's father did.

配点：20点（各2点，問9は各2点）

正解 問1 ア 問2 イ 問3 ウ 問4 ア 問5 イ

問6 ア 問7 エ 問8 エ 問9 オ, キ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全 体 3,265	普 通 科 2,887	総合学科 124	商業科系 80	家庭科系 77	英語科系 17	他の学科 80	
問 1	51.2	49.8	51.9	37.9	28.8	27.3	76.5	31.3
問 2		61.7	64.1	46.8	37.5	37.7	94.1	37.5
問 3		49.2	50.8	50.8	28.8	23.4	76.5	27.5
問 4		64.5	66.1	55.6	48.8	46.8	82.4	50.0
問 5		51.7	53.7	39.5	28.8	36.4	76.5	33.8
問 6		56.4	58.3	45.2	35.0	37.7	94.1	36.3
問 7		59.4	61.6	52.4	31.3	36.4	76.5	40.0
問 8		33.0	34.7	18.5	12.5	15.6	76.5	22.5
問 9	イ	50.6	52.1	43.5	32.5	32.5	88.2	36.3
	キ	36.0	37.5	24.2	17.5	20.8	88.2	18.8

調査校全体の正答率は51.2%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	55	正答	5	47	3				0
問 2	40	18	正答	7	15				0
問 3	52	28	19	正答	5				0
問 4	36	正答	5	10	20				1
問 5	56	9	正答	4	42				1
問 6	40	正答	16	5	16				3
問 7	38	14	8	13	正答				3
問 8	77	11	14	49	正答				3
問 9	127	16	24	34	14	正答	20	正答	19

<考察>

問 1 は、テーブルとイスの配置について問う問題である。調査校全体の正答率は49.8%であった。誤答55例のうち、ウを選んだ誤答が47例と非常に多かった。これは、eachの意味が理解できず、

それぞれのテーブルをイスが囲む配置を正確に読み取ることができなかつたためと思われる。

問2は、Mrs. Brown が床の掃除を突然やめた理由を問う問題である。調査校全体の正答率は61.7%であった。誤答は分散しており、直後の I didn't put any salt into the soup! という Mrs. Brown の発言と関連付けて考えることができなかつたようだ。

問3は、Judy が出ていかなければならない理由を問う問題である。調査校全体の正答率は49.2%であった。誤答52例のうち、ア Because she has to buy a cake before the market is closed. を選んだ誤答が28例と半数以上を占めた。これは、直後の The market will be closed soon. に着目することはできたものの、Judy が買うべきものについて正確に読み取ることができなかつたためであろう。

問4は、her work の内容を問う問題である。調査校全体の正答率は64.5%と本問中最も高かつた。直前の So, Mrs. Brown stopped cleaning the floor, から連続して書かれている Mrs. Brown の行動を理解することができたようだ。

問5は、客がテーブルについた時の様子について問う問題である。調査校全体の正答率は51.7%であった。誤答56例のうち、エ surprised を選んだ誤答が42例と非常に多かつた。これは、直前の They were looking forward to her special soup. から客の心情を的確に読み取ることができなかつたためと考えられる。

問6は、Mrs. Brown の父親がスープを飲んだ時の発言内容を問う問題である。調査校全体の正答率は56.4%であった。誤答は分散しており、直後の Mrs. Brown wondered why he needed a lot of water... から、コップの水を飲んでもまだ足りないほどであったという状況を読み取ることができなかつたようだ。

問7は、It was very hard for me to move all the chairs and the table alone. を本文中の適切な位置に入れる問題である。調査校全体の正答率は、59.4%であった。誤答は分散しており、直前の I'm very tired. と関連付けて考えることができなかつたと考えられる。

問8は、スープに塩を入れた人の数を問う問題である。調査校全体の正答率は33.0%と本問中最も低かつた。誤答77例のうち、ウ Three. を選んだ誤答が49例と非常に多かつた。これは、最後の文 "I did, Mom," all three said together. だけに着目し、Mrs. Brown の行動まで考えなかつたためと思われる。

問9は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、オ が50.6%、キ が36.0%であった。誤答は分散しており、登場人物の発言や行動を整理し、物語の展開を正しく捉えることができなかつたのであろう。

<指導上の留意点>

<問題点>

問3、問8、問9に見られるように、複数の登場人物の行動や心情を整理しながら、物語の展開を正しく捉えることができない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後に、グループで各登場人物の担当を決める。担当者は登場人物になりきって、出来事を振り返る質問に答える。全ての登場人物が出来事を振り返ることで、物語の全体像を捉える。

【Mrs. Brown への質問と応答の例】

Why did you have the party? – To celebrate my father's 70th birthday.

What did you do for the party? – I made the soup and cleaned the floor.

Did you put salt into the soup? – Yes, I did. I asked my daughters to do so, but they didn't.

【Judy への質問と応答の例】

Why did you go to the market? – To buy some flowers for the party.

Did you put salt into the soup? – Yes, I did. My mother asked me to do so.

【Mrs. Brown's father への質問と応答の例】

What did you eat at the party? – I ate my daughter's soup.

Was the soup good? – No, it was too salty.

【the guests への質問と応答の例】

Why did you visit Mrs. Brown? – Because she had a party for her father. I looked forward to her soup.

Is Mrs. Brown a good cook? – I thought she was. But the soup at the party was terrible.

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生または放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×を付けなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Koji : Hi, Lisa.

Lisa : Hi, Koji.

Koji : Summer vacation is coming soon. I can't wait.

Lisa : Me, too. What are you going to do?

Koji : Well.... I'm thinking about taking a trip. Do you want to go with me?

Lisa : Sure! Where do you want to go?

Koji : Hmm.... How about Yakushima? My family and I went there in 2008. I love the mountains.

Lisa : That sounds great! How far is it?

Koji : It's about 300 kilometers from my town.

Lisa : Wow! 300 kilometers? That's very far!

Koji : Yes. By boat it takes about 13 hours. You can't go there by plane.

Lisa : How much is the boat ticket?

Koji : I think it's about 8,000 yen.

Lisa : When do you want to go?

Koji : I'm going to practice soccer in my club until Friday, August 7 and visit my grandmother's house on the 8. So how about leaving on the 9?

Lisa : OK. By the way, do you have the boat company's phone number now?

Koji : Yes. It's 5390-7416. Let's call the number right now.

Question 1 Does Lisa want to take a trip with Koji?

- (a) Yes, she does.
- (b) No, she doesn't.
- (c) Yes, they do.
- (d) No, they don't.

Question 2 Who went to Yakushima in 2008?

- (a) Lisa did.
- (b) Lisa and Koji did.
- (c) Koji and his family did.
- (d) Lisa and her friend did.

Question 3 How will Lisa and Koji go from Koji's town to Yakushima?

- (a) By boat.
- (b) By car.
- (c) By plane.
- (d) By train.

Question 4 How long does it take from Koji's town to Yakushima?

- (a) About 3 hours.
- (b) About 13 hours.
- (c) About 30 hours.
- (d) About 33 hours.

Question 5 When will Lisa and Koji go to Yakushima?

- (a) On Thursday, August 6.
- (b) On Friday, August 7.
- (c) On Saturday, August 8.
- (d) On Sunday, August 9.

配点 10点 (各2点)

正答 Question 1 a (○) b (×) c (×) d (×) Question 2 a (×) b (×) c (○) d (×)
 Question 3 a (○) b (×) c (×) d (×) Question 4 a (×) b (○) c (×) d (×)
 Question 5 a (×) b (×) c (×) d (○)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確認する問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、Koji と Lisa が夏休みの計画について話している会話である。問題文の語数は158語であり、昨年度の177語よりやや短くなっている。質問は、Yes または No で答える疑問文を1問 (Question 1)と疑問詞を使った疑問文を4問 (Questions 2, 3, 4, 5)とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は59.1%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率 (%) >

学科・人数 小問	全 体 3,265	普 通 科 2,887	総合学科 124	商業科系 80	家庭科系 77	英語科系 17	他の学科 80	
Question 1	77.6	77.6	78.8	69.4	70.0	68.8	100.0	60.0
Question 2		75.8	76.4	72.6	67.5	67.5	94.1	70.0
Question 3		48.1	48.8	41.1	43.8	45.5	47.1	41.3
Question 4		54.9	55.7	54.0	56.3	42.9	76.5	33.8
Question 5		39.3	39.8	37.9	36.3	29.9	94.1	22.5

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
Question 1	28	正答	16	10	2	0
Question 2	23	1	21	正答	1	0
Question 3	50	正答	4	25	21	0
Question 4	56	14	正答	27	15	0
Question 5	73	8	49	16	正答	0

<考察>

Question 1 は、「Lisa は Koji と旅行に行きたいか」を問うものである。調査校全体の正答率は 77.6% と本問中最も高かった。Lisa の Sure! という応答を理解できたと考えられる。

Question 2 は、「2008 年に誰が Yakushima に行ったのか」を問うものである。調査校全体の正答率は 75.8% と高かった。Koji が How about Yakushima? と Yakushima の話題を出した直後に My family and I went there in 2008. と言っており、その発言の意味を理解できたと思われる。

Question 3 は、「どうやって Lisa と Koji が Koji の町から Yakushima へ行くのか」を問うものである。調査校全体の正答率は 48.1% と低かった。誤答 50 例のうち 25 例が (c) By plane. であり、21 例が (d) By train. であった。これは、Koji の You can't go there by plane. という言葉から誤って判断したためと思われる。

Question 4 は、「Koji の町から Yakushima までどのくらいの時間がかかるか」を問うものである。調査校全体の正答率は 54.9% であった。誤答 56 例のうち 27 例は (c) About 30 hours. であった。これは 13 と 30 が正しく聞き分けられなかったためと考えられる。

Question 5 は、「Lisa と Koji がいつ Yakushima へ行くのか」を問うものである。調査校全体の正答率は 39.3% と本問中最も低かった。誤答 73 例のうち 49 例は (b) On Friday, August 7. であった。これは、Koji の発言で正答となる “So how about leaving on the 9?” “OK.” という対話の流れを正しく捉えることができず、直前の ...Friday, August 7... から誤って判断したと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

Question 5 のように、情報を断片的に捉えてしまい、順を追って正確に聞き取ることができていない。

<具体的な指導例>

発表を聞いて、5W1H を整理して理解することを中心とした言語活動を行う。特に、時間を表す表現が出てくる場合には順を追って内容を整理させる。例えば、ペアで自分の夏休みの予定について発表させ、その内容についての確認や意見交換をさせる。

【発表の例】

This summer, I am planning to go to Tokyo with my brother. My sister lives there. She is a university student. On August 7, we are going to visit her. We want to go to Tokyo Disney Land on the 8. We are going to come back to Aichi on the 9. I'm really looking forward to seeing her.

【聞き取った内容について確認する例】

You are going to visit your sister on August 7, right?

Are you going to come back to Aichi on the 7?

【質問・意見の例】

How are you going to Tokyo?

You should go to Tokyo Disney Sea, not Land.